

| 明治時代<br>1868～ | 大正時代<br>1912～ | 昭和時代<br>1926～ | 平成時代<br>1989～ |
|---------------|---------------|---------------|---------------|
|---------------|---------------|---------------|---------------|

1876 (明治 9) 南浜の移住戸数 11 軒を数える。  
以後、年間の出入り数百人に増える (ニシン漁による出稼ぎ者の増加)。  
1890 (明治 23) 南浜に正徳寺が建てられ、布教は始まる。このころから移住者が増える。  
1892 (明治 25) 南浜に神社が建てられる。小学校が開校。  
富山からの漁夫が舞った神楽を神社に奉納。【南浜獅子神楽のはじまり】  
以後、祭典で舞われる。

1920 代 (大正末) 加藤兵太郎らが神楽を習う。以後、南浜の有志で舞い続けられる。

1966 (昭和 41) NHK取材  
1968 (昭和 43) 南浜獅子神楽保存会が結成される。北見神社へ奉納。  
1979 (昭和 54) 町無形民俗文化財に指定。  
1981 (昭和 56) 鬼脇中央青年団を中心とした若獅子会が結成される。  
1982 (昭和 57) 文化財保護少年団が組織され、保存会が指導にあたる。  
1984 (昭和 59) 利尻小学校の特別教育活動として取り入れられる。  
1985 (昭和 60) 北海道文化財保護功労者賞・町文化協会文化賞を受賞。

2010 (平成 22) 公民館事業として、南浜獅子神楽子ども教室がはじまる。  
2016 (平成 28) 宗谷管内教育実践表彰を受賞。  
2017 (平成 29) ほっかいどう子ども民俗芸能振興事業成果発表会 (道北ブロック) に宗谷管内代表として出場 (東川町)  
2018 (平成 30) ほっかいどう子ども民俗芸能全道大会に道北ブロック代表として出場 (札幌市)



1920代



1965代



1959



1984



2014



2017



2018



2015

## 南浜獅子神楽の演目と道具

南浜獅子神楽は、  
 笛と太鼓の曲にあわせて、  
 天狗と獅子が戦う勇壮な踊りです。  
 宗谷管内で唯一伝わっている越中富山県の神楽で、  
 百足（むかで）獅子という種類で射水市由来のものと考えられています。初期の獅子頭は、木製で手づくりされたものでした。同じく初期に使われた太鼓は、越中新湊町（現 射水市）から昭和2年に持ち込まれたものです。現在、大人が  
 使っている頭は3代目で、重さは6kgもあります。  
 まねこきとよばれる小天狗は、今ではタラの面  
 をつけ天狗の動きを真似ます。



初期の獅子頭と太鼓



タラの面



◆踊りは10種類です。

- (1) 祈りの舞（なぎなた）：神社で最初に舞う。
- (2) 三番叟（さんばそう）の舞（槍）：神に捧げる舞。前座に出ず祝儀の舞。
- (3) 護身の舞（なぎなた）：なぎなたを手に取り、獅子とからんで討ち取る。
- (4) 悪魔払いの舞（葉団扇、剣）：わらじ履きのまま座敷を走る。
- (5) 豊漁の舞（弓、矢）：弓を釣具に、獅子を魚と見立て射止める。
- (6) 豊穰の舞（鎌）：五穀豊穰を祈る。
- (7) 安穏の舞（剣、傘）：豊漁豊作になり、悪魔払いをし、人々は安心した日々を送る。
- (8) 悟了（ごりょう）の舞（なぎなた、剣）：剣で舞い、なぎなたで獅子をおさえる。ぜいたくな生活を反省する舞。
- (9) 獅子殺しの舞（剣）：剣を持って獅子と絡み、最後は獅子、天狗、まねこき、しっぽ役が胴幕内の獅子役の肩にのって一巡する。悪魔を一掃し、人々が喜び合う（写真下）。
- (10) 感謝の舞（なぎなた）：祈りの舞と同じ。

◇曲は4種類です。

祈願となぎなた、弓鎌、三番叟



◆保存会では、会員を募集中です。興味のある方は、下記までぜひお問い合わせください。

◇今後の活動予定

11/24 利尻雅道会コンサート出演（どんと）

2019年 鬼脇祭典宵宮祭演舞 北海島まつり鬼脇会場演舞 子ども教室指導

◆鬼脇公民館(Tel.83-1321) 教育委員会(Tel.82-1370)